

# 感謝を大切に、役立つものをつくる

近藤和博さん (株式会社名和樹脂)

町立の医療機関である東郷診療所へ通っている近藤さんは、新型コロナウイルスの感染対策が呼び掛けられている中、窓口用のアクリルパネルを作製し、寄贈して下さいました。

今回は、近藤さんに寄贈の経緯などお話を伺いました。

## 感謝のお返しがしたい

15年前、近藤さんは心臓を悪くし、毎月一回診察のため東郷診療所へ通っています。近藤さんは、通院の際に、新型コロナウイルス感染拡大により診療所が窓口の飛沫感染対策に悩んでいることを知ります。

「東郷診療所には長年お世話になっている。いつもやさしく接して下さる診療所の皆さんへ、感謝のお返しがしたいと思いました」と近藤さんは振り返ります。

## 会社の技術を生かして

近藤さんは樹脂の加工を行っている、株式会社名和樹脂の代表取締役を務めています。

近藤さんは自社の技術を生かして窓口用のアクリルパネルをつくり、東郷診療所の感染対策に役立てられればと考えます。

近藤さんは診療所の窓口の高さを測り、パネルの大きさを調整。

また、パネルが倒れないように滑り止めをつけるなどの加工をします。

3〜4日かけて東郷診療所の窓口にぴったりな大きさのアクリルパネルを3セット作製しました。アクリルパネルは東郷診療所へ寄付され、診療所の窓口に設置し、感染症対策に活用されています。

## 世界に通用する会社を目指す

株式会社名和樹脂は町内に本社を構えており、モーターショー向けのアクリルモデルや、金型による樹脂成型部品などをつくっています。会社の目標は「目指せ世界に通用する町工場」。近藤さんは、世界に通用する高い品質のものをつくっていきたいと意気込みます。

また、近藤さんは地元へ還元することも大切にしています。「会社で発注するものがあれば、地元東郷町のお店に頼むようにしています」と微笑みます。

## 身近なものをつくりたい

近藤さんは今後、「一家に一つあるような、身近なもの」を自分で考え、自分でつくり、自分で販売をしたいと話します。

近藤さんがつくったものが、私たちの家庭に何気なくある。そんな日も遠くないかもしれません。



東郷診療所窓口